Going! PCO

札幌　令和5年度自衛隊体験フェスタ
2泊3日の研修に高校生など105人が参加

若手自衛官との懇談風景

札幌地方協力本部は7月28日から30日の間、陸上自衛隊北部方面隊が主催する自衛隊体験フェスタに105人の高校生・大学生などと一緒に参加しました。

参加した学生たちは、期間中90式戦車の体験試乗、多用途支援艦「すおう」の体験航海およびKC-767空中給油機の体験搭乗など各種広報イベントや、陸・海・空自衛隊の現職自衛官との意見交換などを通じて自衛隊の多種多様な職種を体感し、職業の有意な選択肢として意識を高めました。

3年振りに復活した寝食を伴う2泊3日の研修では、さまざまな研修や体験および天幕野営を通じて、それぞれに働くイメージを膨らませ、理解を深めている様子でした。

また、同世代の学生が寝食をともにし、互いに想親を深めるとともに、将来に対する夢や希望などを語りあえた有意義な研修となったようです。懇談でも「自衛隊にはさまざまな仕事があることが分かりました。隊員の方々に親切に対応していただき、自衛隊のイメージが変わりました」「自衛隊の任務や活動を知り、隊員の実際の生活を体感することで、自衛官になろうという意欲が高まりました」との感想を多く聞くことができました。

千葉　地本の力を結集しフィギュアの祭典で活動
5万人の来場者に自衛隊を積極的に広報

予備自衛官等制度説明コーナー

千葉地方協力本部は7月30日、幕張メッセで開催された「ワンダーフェスティバル2023夏」において広報活動を行いました。

本イベントでは、陸上自衛隊第1空挺団の支援を受け、高機動車、1/2トラック、偵察用オートバイを展示するとともに広報ブースを設置し、ミリタリータレントの月野美幸氏の協力も得て、来場した約5万人のフィギュアファンに積極的に自衛隊をPRしました。

千葉地本は、このフィギュアの祭典に地本本部員および各事務所広報官の力を結集して、ライトアップした高機動車、1/2トラック、偵察用オートバイの展示、広報用制服の試着、VR体験、予備自衛官等制度の説明、アンケート記入の依頼を行いました。

特に盛況だったのが、広報用制服を試着したり、アニメのキャラクターに扮した来場者が、高機動車や偵察用オートバイなどに乗車して思い思いのポーズで記念撮影を行える展示ブースで、イベント開催中途切れることはありませんでした。

また、VR体験ではブルーインパルス操縦席からの臨場感あふれる映像を体験できてバイロットの世界を楽しんでいる様子でした。

広報ブース運営のほか、千葉地本キャラクター（千葉3兄妹）も人気で、現れる度に即席の撮影会が行われ、自衛隊への親近感の醸成に一役買っていました。

さらに、今回初の試みとして、予備自衛官等制度説明コーナーを設け、来場した多くの社会人の方に即応予備自衛官制度、予備自衛官補制度について説明することができました。

来場者からは「陸・海・空自衛隊で迷彩服に違いがあることを教えてもらった」「予備自衛官補のパンフレットをもらったので家で読んでみます」などの意見が寄せられ自衛隊に興味を持っていただけたようでした。

和歌山　自衛隊家族会主催「防衛講演会」を支援
「ウクライナ、台湾そして日本」と題し講演

講演後、質問に答える講師

和歌山地方協力本部は9月2日、公益社団法人自衛隊家族会が主催し、和歌山県自衛隊家族会が担当した防衛講演会を支援しました。

防衛講演会は、例年全国各地で開催されていましたが、近年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できず、今回は久々の開催となりました。

講師は元陸上総隊司令官の高田克樹氏が務め「ウクライナ、台湾そして日本」と題し、国際情勢について講演しました。参加者からは「今後のウクライナ情勢はどうなるのか」「今の日本に必要なものは何か」など多くの質問があり、高田氏は一つ一つ丁寧に回答していました。

福岡　5個駐屯地にて援護キャンペーンを展開
元任期制隊員などのOBの講話が好評

OBによる講話

福岡地本協力本部は6月23日から7月31日までの間、令和5年度第1回援護キャンペーンを小倉・久留米・小郡・飯塚・福岡の県内5個駐屯地において実施しました。

援護キャンペーンの目的は、就職の援助を希望する任期制退職予定隊員の意識改革の促進および資質の向上、中隊長などの就職援護能力の向上を図るとともに、隊員の予備自衛官などへの志願率向上、隊員自主募集などの促進を図ることであり、任期制隊員、中隊長など98人が参加しました。

本キャンペーンにおける教育の目玉として、各駐屯地で勤務経験のある元任期制隊員をはじめとするOBなどによる講話を実施しました。

講話は、再就職後の感想、企業の求める人物像および後輩隊員へのアドバイスなどを中心に行われました。

また、講師が同駐屯地出身の先輩隊員ということもあり、任期制隊員たちは熱心に話を聞いていました。

任期制隊員からは「求人票の見方や退職後の給料とか分からなかったことを聞けて良かったです。特にOBの講話は勉強になりました。退職後は建設業に進もうと考えていたところ、何をするのかが大雑把にしか分からなかったので、講話を聞けてよかったです」といった声が聞かれました。

任期制隊員は、8月29日および31日に実施された任期制隊員合同企業説明会を目前に控えていたこともあり、真剣な表情で本キャンペーンに臨み、積極的に質問をするなど疑問点の解消に努めていました。

栃木　家族会会員親子と広報展を開催
自衛隊サマキャンへの協力依頼を受け

猪瀬2佐（左）と記念撮影

栃木地方協力本部真岡募集業務所は7月29日、栃木県上三川町で行われた「第28回夕顔サマーフェスティバル」で広報展を開催しました。

この広報展は、7月21日から全国一斉に開始された「陸海空自衛隊サマー・フレンドシップキャンペーン」への協力依頼を受けた上三川町自衛隊家族会会員（時計店いのせ代表）猪瀬敏司氏とそのご子息（海上自衛隊護衛艦隊司令部）・猪瀬2等海佐から、サマーフェスティバル会場エリア内となるご自身の店舗駐車場を利用して自衛隊の募集活動をPRしたいとの申し出を受け、開催することとなりました。

「夕顔サマーフェスティバル」は栃木県上三川町の夏を飾る一大イベントでコロナ禍のため4年ぶりの開催ということもあり多くの来場者が訪れました。

当日は、猪瀬2佐とともに広報活動を行い、自衛隊ブースには海自護衛艦隊司令部の計らいで持ち込まれた「南極の水」を展示したほか、自衛隊説明コーナー、制服試着、上三川町自衛隊家族会（杉山芳男会長）によるグッズ販売などを出展したところ大勢の来場者で賑わいました。

特に、南極の氷の展示が人気を博し「南極の水はとても冷たくてつるつるでした」「氷に閉じ込められた太古の空気をパチパチとした音で楽しめました」と来場者は、夏の暑い日差しの中、冷たい氷に触れながら楽しそうに話していました。

岩手　予備自衛官部隊が盛岡さんさ踊りに初参加
盛岡の夏祭りを盛り上げ、仲間意識を高揚

パレードする予備自衛官部隊

岩手地方協力本部所属の予備自衛官とその家族9人は8月4日、盛岡さんさ踊りパレードに予備自衛官部隊として初めて参加しました。

今年で46年目となる盛岡さんさ踊りパレードは、東北を代表する夏の風物詩で8月1日から4日までの間、盛岡市中央通りをメイン会場とし4年ぶりに通常規模で開催されました。

パレードの大トリは、陸上自衛隊岩手駐屯地さんさ踊り部約260人による自衛官ならではの見事に息の合った大規模なさんさ踊りでした。

迫力ある自衛隊のさんさ踊りを思い出に残そうと撮影する人や「自衛隊さん頑張って～」と手を振り声援を送る人などに、駐屯地の隊員や予備自衛官部隊は笑顔で応え、祭りを大いに盛り上げました。

参加した予備自衛官は「現職時以来、久々にさんさ踊りに参加した。常備自衛官と一緒に踊れて楽しかった」「予備自衛官として、このような形で地域貢献ができたのはよかった」と充実感あふれる表情で話してくれました。

今回、初めて予備自衛官部隊として参加し、常備自衛官と招集訓練以外での交流ができ、仲間意識の高揚および帰属意識の向上を図ることができました。

札幌　北部方面隊総合戦闘力演習を見学
北海道大演習場で生の訓練を体感

札幌地方協力本部は8月21日と23日の両日、北海道大演習場で行われた令和5年度北部方面隊総合戦闘力演習に、札幌地本管内の受験予定者10人を部隊研修として引率しました。

参加した生徒たちは、同演習場島松地区において第3施設団および第1高射特科団を、同演習場千歳地区において第10即応機動連隊の作戦準備状況を研修しました。

初日は、各部隊の指揮所および訓練状況を研修した後、装備品の見学を行い、昼食は現職自衛官と同じコンバットレーション（戦闘糧食）を体験喫食しました。

2日目は、戦闘服を試着して研修しました。これまでテレビや雑誌、あるいは広報官の説明などを通じて、自衛隊のイメージを描いていた生徒たちは、全ての研修を通して自衛隊の仕事を体感し、より具体的な職業として自衛隊への理解を深めている様子でした。

作戦準備状況を研修

群馬　任期制隊員合同企業説明会
県内などの優良企業および県警察が参加

群馬地方協力本部は9月1日、前橋市内において一般財団法人自衛隊援護協会東京支部主催による「令和5年度群馬県任期制隊員合同企業説明会」を開催しました。

この説明会は、群馬県内などに就職を希望する任期制退職予定隊員に対し、雇用の現状を把握させ再就職に向けた具体的な準備を行わせるとともに、予備自衛官等制度の普及に努めることを目的に開催したもので、今回で22回目となります。

参加隊員は15人で、群馬県内などの優良企業20社に加え群馬県警および埼玉県警が参加しました。

説明会は2部構成で行われ、前段の面談では、隊員の希望業種・勤務地などを考慮した指定面談を2回、後段の面談では隊員の希望による自由面談を3回行いました。

参加隊員は、各企業ブースにおいて、業務内容や採用後の待遇などの説明を真剣に聞くとともに、積極的に質問するなど熱心に取り組んでいました。

なお、予備自衛官等制度普及のため、予備自衛官や即応予備自衛官の活動状況のパネルを展示し、予備自衛官等志願への意識付けも行いました。

参加隊員からは「具体的な話を聞けて大変参考になりました。働いてみたい企業があったので、入社試験に向けてしっかりと準備を進めます」などの意気込みを聞くことができました。

企業担当者と面談する任期制隊員

神奈川　高校生を対象に部活動応援企画を実施
合同練習に加え1泊2日の生活体験

隊員との合同練習

神奈川地方協力本部相模原地域事務所は8月21日と22日の両日、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地（御殿場市）の支援を受け、部活動応援企画「ジョイトレ（体験入隊）」を行いました。

3年目の今年は、滝ヶ原駐屯地持続走練成隊と光明学園相模原高校陸上駅伝部26人との合同練習に加え、学校からの要望を受け自衛隊で1泊2日の生活体験を行いました。

初日は、滝ヶ原駐屯地に到着後、昼食を済ませて御殿場競技場に移動。準備運動の後、御殿場登山道を富士山5合目まで駆け上りました。その後、駐屯地に戻り、夕食、ベッドメイキング、駐屯地の概要説明および夜間訓練（行進）を行いました。

2日目は、ラッパとともに起床し点呼後、朝食をとり基本教練、天幕設営、資料館見学、装備品展示および体験搭乗を行って生活体験を終了しました。

3回目の参加となった陸上駅伝部キャプテンは「今まで部員に対して大きな声で指示をしたことがなかったが、今回、部員全員を把握し明確に指示を出せるようになりよかったです」と話していました。

千葉　防衛大学校オープンキャンパス
「廉恥、真勇、礼節」の実践を肌で感じる

学校長によるウエルカムスピーチ

千葉地方協力本部は7月22日と23日の両日、防衛大学校で行われたオープンキャンパスに、受験希望者および保護者計37人を引率・案内しました。

この事業は、防衛大学校が開催するオープンキャンパスを通じて、参加者の防衛大学校への理解と認識を深めていただくことを目的に行われました。

参加者たちは、初めに記念講堂において学校長のウエルカムスピーチ・概要説明を聴講した後、模擬授業の受講および入試相談、その後は各研究室、入校後に日常生活を行う学生舎および図書館などを見学しました。

さらに、校友会（部活動）について詳しく話を聞きたいという参加者の突然の依頼にも快く応えていただき、参加者の疑問点を解消しました。

受験希望者からは「制服がかっこいい」「キャンパス内の見学や丁寧な説明で充実したオープンキャンパスでした」との嬉しいコメントもありました。保護者からも「教育内容や施設が充実しているのでいいですね」などの感想がありました。

また、参加者に対して、終始元気な挨拶をする、道行く防大生の姿からは、まさに学生綱領である「廉恥、真勇、礼節」の実践を感じることができました。

受験希望者からは志願意欲が増している様子が終始うかがうことができ、オープンキャンパスに参加する最大の意義は、校風を肌で真に感じることだと改めて実感しました。